

<白金標準先物、上昇ウェッジ形成で 4200 円割れの調整待ち・・・>



(出所：オアシス)

9月30日にプーチン・ロシア大統領がウクライナ4州を併合演説を行い、LMEはロシアのルサル（アルミ）やノリリスク（ニッケル）の指定倉庫の使用禁止処置を協議開始、またWPICは10月11日に2023年のプラチナ需給は供給不足へ移行すると発表している。またNYマーカントイル取引所の指定倉庫のプラチナ在庫が5.1トンまで減少し、コメックス取引所のプラチナ先物オプションのショート・ポジションが4月以来ロング・ポジションへ変化するなどドル建て価格で8月以来の974.1ドルまで上昇している。特に円建ての白金標準先物は9月29日の3825円（A）から32年ぶりの151.96円まで円安が進む恩恵を受けて4349円まで524円の上昇を行なっている。ただ共産党大会を終えた中国市場では株価が大きく下落し円安もあり、日銀の介入もあり145.65円まで円高になるなど1ヵ月続いた金融要因も変化の兆しを見せている。またエリオット波動論で示す5波における上昇ウェッジは調整前の予兆でもあることから、524円の上昇に対する0.382の調整である4148円に向けた値動きには注意が必要と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが上昇を続けながら、RCIでは短期が維持しながら、長期も上昇が止まっている。特に日足と40日移動平均線や200日移動平均線の乖離が拡大しており、MACDにおけるシグナルを下回る弱気のクロスが発生した場合は転換する値動きに注意した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,098,000 円(2022 年 10 月 31 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 10 月 31 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>